

事例 16 「社会貢献の森」協定における海岸林植樹活動

(東北森林管理局 由利森林管理署)



- ・秋田県由利本荘市 ^{ゆりほんじょう} 由利森林管理署
- ・協定締結の様子
(令和6(2024)年6月)

- ・秋田県由利本荘市 ^{みずばやし} 水林国有林
- ・クロマツを植樹する様子
(令和6(2024)年11月)

SDGs や ESG 投資※への関心が高まる中、国有林野事業では、企業の社会的責任(CSR)活動のためのフィールド提供を行っています。この一環として、由利森林管理署では、令和6(2024)年6月に地元の自動車開発企業である株式会社ジェイテクト IT 開発センター秋田と森林整備等の活動に関する「社会貢献の森」協定を締結しました。

同社は、協定に基づき、近年、松くい虫による森林被害が増加している由利本荘市内の海岸林において、植樹体験を通じた自然環境に対する社員等の理解向上や、植樹・保育等によるカーボンニュートラルの実現に向けた貢献に取り組むこととしています。

令和6(2024)年度は、同社の従業員や家族等26名が植樹活動に参加し、松くい虫被害の原因となるマツノザイセンチュウに抵抗性を持つ「抵抗性クロマツ」を100本植樹しました。同社からは、「今回の活動を通じて従業員の自然や環境に関する意識が高まった」といった感想が寄せられました。

同署では、今後もこれらの活動が円滑に進むよう同社への技術指導や助言を行うこととしており、引き続き、国有林野を活用した国民参加の森林づくり活動に取り組んでいきます。